

1 特産黒大豆の品質向上のための総合管理技術

はじめに

兵庫県の篠山市を中心に栽培されている丹波黒大豆は全国的にも知られたブランドである。ところが近年連作による茎疫病の発生、台風やかんばつ等により品質の低下を招き、産地の維持に関わる問題として危機感を募らせている。そこで特産ブランドを守るためより高い品質、2L率の向上を目指し、総合的な管理技術について研究を推進している。現在取り組んでいる内容と今後の研究の方向性について概要を説明する。

黒大豆病害の総合管理技術

黒大豆生産に大きな被害を与える要因に土壤伝染病（茎疫病、黒根腐病）の発生がある。これらの病原菌（糸状菌）は耐久体を形成するため、水田化によっても死滅させることが困難である。そのため耕種的防除法や拮抗菌であるトリコデルマ菌を利用した生物防除制御法、亜リン酸による病害に強い作物にすることで、各種薬剤の防除効果を確認し、有効な防除手段を得た。これらの有効な手段を組み合わせることで総合的な防除体系を目指した実証ほを設置し推進している。

生産地における生産作業管理上の課題

産地では機械化により作業の省力化が進められているが、高齢者や女性が日々の栽培管理作業の主体であり、更なる作業の軽減化が求められている。一方、品質は連作による土壤伝染病の増加、異常気象などにより低下する傾向がある。特に土壤伝染病は生産意欲を大きく削ぐため、生産振興上大きな問題となっている。そこで、今まで試験研究で蓄積されてきた成果を生かした生産体系を改善し、高品質な大豆の生産を目指す。

黒大豆の機械化技術

経営規模を拡大し、高齢化にも対応するために軽労化、早期出荷を図る必要がある。中でも収穫前に葉落とし作業はきつい作業であり、時間もかかる。そのため茎葉付き乾燥法の改善にも取り組んでいる。また本特集では機械化の内、機械防除について安全な作業について整理している。

今後の方針

病害虫の総合的な防除体系を確立するとともに新たな施肥・栽培管理、灌水・排水対策による水分管理、機械乾燥の改善などについて今後現地に実証圃を設置・検討し、品質の高い豆生産を実現するよう研究開発を進める。

合田 薫（農業技セ・病害虫防除部）  
（問い合わせ先 電話：0790 - 47 - 1222）

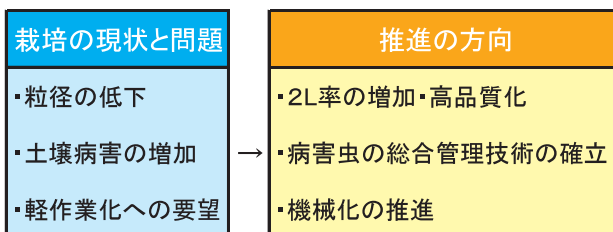


図 黒大豆生産上の問題と研究方向